

避難訓練でのお話(令和3年6月17日)

校長先生から、大事なお話をします。

自分の命は自分で守ります。命がなくなると何もできません。
そして自分の命があればいずれ、人の命も助けることができるかもしれません。

そのために今日は江南北小の全員で避難訓練を行いました。

訓練とは、本当の時はこうだろうと考えて行う練習です。
人は、練習をすると上手になります。
字も計算も音読もそうです。ですから練習は大切です。

でもあと一つ大事なのは、「真剣に」行うことです。
真剣に行わなければ、練習になりません。
間違っただけの乱暴な字をいくら書いても練習にはなりませんからね。

前に、修学旅行中の小学6年生が乗った船が沈没するという事故がありました。
結局、全員が無事助けられ、一人も死んでしまったりする子はいませんでした。
助けが来るまで子供たちは救命胴衣という、水に浮く洋服を着て、沈みかかった船の上で
助けを待っていました。

その後、船長の指示で次々と海に飛び込み、近くの船の乗組員さんに助け出されました。
その6年生たちは、助けを待つ間もパニックを起こさず、「僕より先にこっちの子を」とみんなが
助かる方法を考え、帰り際には「ありがとう」の大合唱をしたとのことでした。
この話を聞いて校長先生はとても感動をしました。

おそらくこの6年生たちは、プールで、洋服を着て泳ぐ「着衣水泳」の学習を真剣に行ったの
でしょうし、避難訓練では指示をよく聞いて行動することを真剣にしていたのだと思います。
突然の事故の時に、その態度が結果として現われたのだと思うのです。

もしもの時がないことが一番なのですが、
地震の多い日本、海に囲まれた日本、
近くを大きな川が流れるこの地区、竜巻に襲われたことのあるこの地区で生きていくときに、
何らかの災害や事故に巻き込まれることは簡単に想像できます。
今日はそのときのための訓練でした。

皆さん、今日の訓練のことを心に留めてください。

「自分の命は自分で守る」
1年生も6年生もすべての皆さんが。

これで校長先生のお話はおしまいです。